あおい通信 第147号

第147号 平成29年8月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

日本の祭り 竿燈祭り

世界遺産めぐり最終章（文化遺産）

竿燈祭り

竿燈（かんとう）は、毎年八月三日～六日に秋田県秋田市で行われる祭り。祭りの正式名称は「秋田竿燈まつり」

東北地方の他の祭と日程が重なりやすかったため二〇〇一年から一日前倒して現在に至っている。竿燈全体を稲穂に、連なる提灯を米俵に見立て、額・腰・肩などにのせ、豊作を祈る。重要無形民俗文化財に指定されており、青森のねぶた祭り、仙台七夕まつりと並んで東北三大祭りの一つとされる。また、二本松提灯祭り（福島県）尾張津島天王祭（愛知県）と並び、日本三大提灯祭りにもなっている。

二〇〇〇年までは八月四日～七日の日程で開催されていた。笹や合歓木に願い事を書いた短冊を下げ、それを手に練り歩き川へ流して真夏の邪気や睡魔を払う「眠り流し」が原型とされている。

眠り流し自体は江戸時代以前より行なわれており、宝暦年間には現在の原型があったとされ、五穀豊穣や無病息災、技芸上達を願って、旧暦七月七日にあわせて行われる七夕行事とともに、旧暦七月十五日のお盆を迎え入れるために一連の行事として現在の形になったとも言われている。「眠り流し」という言葉が訛り、秋田市では「ねぶり流し」と呼んでいる。

竿燈は、外町（町人町）に住む職人や商人によって始められ、お盆に門前に立てる高灯籠を持ち歩けるようにしたのが竿燈の始まりとされている。次第に灯篭も数十個と下げるようになり、力を競うようになっていった。蝋燭や提灯が町民にも普及したことや、力よりも技を競うようになったことで現在の形になったとされている。いつから現在のような形態になったのかは定かではないが、数々の資料から背景を探ることができる。寛政元年に書かれた「雪の降る道」には、現在の竿燈に近い姿の絵が描かれている。文化十一年に書かれた「秋田風俗問状答」には平手で竿燈を持ち上げている絵が描かれている。慶応三年に書かれた「出羽の道わけ」には頭に乗せて演技する姿が描かれている。

竿燈の語源は景徳傳燈録の百尺竿頭須進歩からヒントを得て、大久保鐵作によって名付けられたとされている。また、昔は作り灯篭、ネブリナガシ、七夕とも呼ばれていた。

秋田県能代市のねぶたは、現在では名古屋城を模したという城型で、大きさは青森ねぶたと変わらず、ほぼ同型のものが七～八台出て市街を練り歩いている。

東西南北

表題変更について

（北）→（N）NORTH
ノースの頭文字
（東）→（E）EAST
イーストの頭文字
（西）→（W）WEST
ウエストの頭文字
（南）→（S）SOUTH
サウスの頭文字

それぞれの頭文字を並べ変えるとNEWSでニュースとなりますが、日本的表現にして東西南北と表示しました。広範囲に話題を収集したいと思ってます。

編集長

北九州豪雨災害・関東でも大荒れ・・

七月の初旬九州北部を襲った豪雨災害から二週間が経った。報道では福岡、大分両県の死者が34人になった、福岡県内では依然7人との連絡が取れてない。

関東でも大荒れ、都内でひょう、7月19日、東京都や神奈川県内で同日午後局地的な雷雨に見舞われ、ひょうやあられが降った地域もあった。豊島区のJR駒込駅前ではひょう交じりの豪雨で道路が冠水したほか、同駅ホームのプラスチック製屋根が破損。池袋駅周辺でも午後3時頃から10分間、強い風を伴ってひょうが降った。

小平市の武蔵野美術大学では学期末の筆記試験が行われていた講義室が水浸しになり、学生らは教室外に避難したという。

悪天候でJR山手線や東京メトロ東西線他4線が一時、運転を見合わせた。東海道新幹線も小田原―新富士間で落雷による停電が起き、上下計5本が約20分遅れた。東京、神奈川、群馬の3都県の2万7000軒の停電が発生した。

そんな翌日（20日）に西は中国、四国から東は関東、甲信の各地方と翌一日遅れ（21日）で九州地方、山口県に気象庁が梅雨明け宣言をした。

これから本格的「夏」が訪れるのだ、これまでの猛暑に熱中症で死亡された方も多数おり、これ以上の猛暑が来ると考えると恐怖にさえ感じる今年である。体調管理には怠りなくこの8月を乗り切りましょう。

ヨッチャン

談話室

一ヶ月乗り越えたパンダ

上野動物園のジャントパンダに赤ちゃんが生まれてから一ヶ月が経過した。

7月12日の記者会見で福田豊園長は「不安定で難しい時期を乗り越えられた」と、ほっとした様子で語った。園で生後一か月を超えたのは1988年に生まれたユウユウ以来、29年ぶりとなる。園によると、生まれた時に約150㌘だった体重は1㌔を越え、日に日に大きくなっている。あと数日で目が開き、生後3か月を迎えるころにはよちよち歩きを始めるという。順調に成長しているが「まだまだ気が抜けない」と園長。100㌔を超える母親のシンシンが誤って押しつぶしてしまう可能性や、感染症にかかるリスクがある。出産前日から続けてきた24時間態勢の見守りは当面続け、中国から招いた保育専門家とともにサポートするとのこと。

K・ドラゴン

◆編集委員会より
「あおい通信」は皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島

葵友の会 広報コーナー

7月の報告

4、5（火、水）三浦半島1泊旅行。一八名の参加でした。二日目城ケ島の景色、三崎のまぐろを堪能してきました。

8月の予定

21（金）カラオケ。12名の参加。

18（金）カラオケ（事務局）

利用者さんの紹介コーナー

武藤　元治（火、土）

私は、八十三歳、自立歩行を目標にお世話になります。緊張から抜け出し、皆さんと仲良く、あせらず、頑張っていきます。

原口　秀子（土）

主人の仕事の関係で外国生活が長かったです。メキシコ、ボリビア、インドネシア、フィリピン。子供がまだ小さかったので大変でした。趣味は、油絵を八年間習っていました。

志村　和子（水）

師範学校時代、バレーボール（九人制）の選手でした。スポーツは好きです。今は、野球のテレビ観戦です。巨人の成績が気になります。

「葵」の開所動機

社長　片山 章

株式会社ケアシステムネットワークというのが我社名ですが、ネットワークが組める事業所が幾つもあるわけではありません。リハビリテーションデイサービス葵が一つあるのみ。開業当初は、次々に事業所展開して関東一円にネットワークを張り巡らせてと思い描いていましたが…。

その動機は、父の癌と母の痴呆症（当時の呼称）がほぼ同時期に出現したことに遡ります。十五年ほど前、癌の手術を拒否、その後自宅療養とホスピス生活を選択し、ほどなく逝った父。相前後して母が転倒骨折から寝たきりとなり、痴呆の進行も速く介護度４となった頃、当時、はなわクリニックの事務長でもあった中高の同級生 中村に誘われたのがきっけです。

癌の父を看取り、七年間母の介護をした私は、今でも、親の介護ほど難しい世界はないと思っていますが、その頃、私自身もサラリーマン生活の人間関係により、自律神経失調症（たぶん鬱病だった）と診断され不眠症となっていました。

結果、古来伝承の「呼吸法」に出会い、鍛錬を続けることで鬱は克服しますが、正直なところサラリーマンには嫌気がさしていましたし、父母の世話をしてくれた医師、看護師、社会福祉士、ケアマネ、介護スタッフ…、彼等の世界に入るのも良いかな、何かの縁だろうな、と思い決断したと云う事です。

建築・不動産の世界しか知らなかった私が、医療・福祉の世界に「はまる」ことになったのは、大正生まれの二人、頑固な父と我儘な母のお陰です。「ありがとう」

平成十六年十一月一日利用者ゼロでスタートしたリハビリテーションデイサービス葵は、十三年後の今日、百七十余人のリハビリに励む利用者で満員になりました。リハビリの効果は初期の利用者がその証明です。そこで開業時から大変お世話になったお一方（？）に感謝状を贈りたいと思います。ご賛同ください。（編集委員会）

感　謝　状

飯島一子殿

あなたはリハビリテーションデイサービス葵の創業以来　片山社長の片腕としてスタッフの指導日々の活動の企画運用に努める傍ら　利用者のリハビリにマット体操を導入　ミステリーツアー等々の行事に常に利用者の安全を計り　機能向上維持で利用者の自立に成果を挙げられました

その多大な貢献に茲に感謝状を贈呈します。

利用者一同

感　謝　状

ドイツHUR社製リハビリマシーン①～④号殿

あなた方はリハビリテーションデイサービス葵の開設当初から　そのドイツ生まれの頑強な体躯と堅実な作動で故障もなく他のマシーンと相俟って長年に亘り葵の利用者の機能向上・筋力強化・維持に多大な貢献をされました

よって茲に感謝状を贈呈します。

利用者一同

父の思い出

島田暎一

（１４６号から続く）

次の中軽井沢（沓掛）駅の近くに父がよく寄った「かぎもとや」と云う手打そば屋があり、店主の土佐さんと言葉を交わしながら、美味しいそばの昼食を頂き元気を取り戻した。

ここから浅間山に向かって国道１４６号線を登って行く。途中、星野温泉や塩壺温泉を経て、浅間山の登山口「峰の茶屋」の三差路に着く。一番左の道は天明三年の浅間大噴火で出来た「鬼押し出し」から草津へ、真中の道は北軽井沢、浅間牧場へ、右の道は「白糸の滝」から旧軽井沢へ下る。

父の「あかね山荘」は真中の道を登ったり下ったりして、長野と群馬の県境を通り、分去り茶屋を過ぎると、浅間牧場の十字路の手前左側にある小路を少し登った処、白い木の門がある。父は春から晩秋まで一年の大半をそこで暮らしていた。

私が週末に着くと、嬉しそうに、あかね鉱泉のお風呂を沸かしてくれた。

翌日天気が良ければ草津から白根山へドライブに連れ出した。

晩年は一日一作主義で「心の歌」シリーズの詩集を書き、第五集「心のやすらぎ」が絶筆となった。何しろ父は金銭感覚に疎かったので、山荘も著作権も失くし、現在「丘を越えて」の歌碑は群馬県の長野原市に管理されている。

昭和四十八年五月三日に亡くなってから、命日に浅間牧場の丘の上に建つ歌碑を訪ね、墓参の代わりとしています。完

「丘を越えて」の歌碑

思い出すままに

河角　進

私は昭和四年十二月十四日、信州の農家の次男として生まれ、十六年五月に祖父、祖母、長男を残して、父母、兄、姉、の五人で旧満州の開拓団に入植しました。信州の冨士見村は村長が団長となり北満州に分村として数百人の村民を連れて渡満しました。敗戦前には各人共、個人経営に移行するほどに農業も発展し、これからと云うときに八月十五日の終戦に逢い、今迄の生活は、すべて水泡に帰し、天国から地獄へとなったのです。開拓団も十六日から、集団生活となり本部、学校、病院の三か所に分かれて生活したのですが、周囲の中国人の襲撃が相次ぎ私の父も二十一年一月二十一日の明け方、銃で狙撃され。四十五才の若さで亡くなりました。団の警備の責任者だったので、その事も原因だったかも知れません

二十一年の八月にやっと日本に引揚げる協定が出来、満州から、南のコロ島まで引揚げ列車で運ばれコロ島の港から、船で日本に帰国する段取りになったのです。それ迄、多くの人々が病気やその他で亡くなり。九百人から六百人ほどの人が日本に帰国出来ました。広島県の大竹港に上陸出来た時には十月になっていました。

広島は一年前の八月六日の原爆投下により、一面が焼野原になっていました。

信州の実家から上京して東京での生活の中から、家内と二人して旅行した折、原爆ドームを見学し、あまりにも悲惨な現状に胸を打たれました。現在の平和な日本を健持する為にも憲法九条は死守し、核廃絶の運動も続けてゆくべきと思います。

寒月や
父の撃たれし　大地哭く
屋根のなき
引揚げ列車や　炎天下